

## 平成29年度 秋田県総合政策審議会 第3回人・もの交流拡大部会 議事要旨

1 日 時 平成29年8月29日(火) 午後1時30分～午後3時20分

2 場 所 ルポールみずほ「ききょう」

3 出席者

○人・もの交流拡大部会委員(旧観光・交通部会委員)

一般社団法人横手市観光協会 会長 打川 敦

株式会社SKO若女将、男鹿温泉郷女将会 会長 佐藤 浩世

秋田県演劇団体連盟 理事長、一般社団法人秋田県芸術文化協会 理事 富橋 信孝

株式会社アジア・メディアプロモーション 代表取締役 渡邊 竜一

秋田大学教育文化学部 准教授 伊藤 恵造

秋田大学大学院理工学研究科 准教授 日野 智

一般社団法人元気ジャパン 代表理事 渡邊 賢一

□県

観光文化スポーツ部 次長 猿橋 進

〃 次長 嘉藤 正和

他 部各課長 等

4 部会長あいさつ

□杉山観光戦略課戦略企画班長

はじめに、打川部会長に、ご挨拶をお願いします。

○打川部会長

委員の皆様にはお忙しい中、遠方よりお越しいただき感謝する。

先日、総合政策審議会の企画部会が開催され、各部会の中の横断的なテーマについて意見交換する機会があった。他の部会のことを当部会で議論することがあまりなく、逆に反省する点もあったが、私どもの人・もの交流拡大部会の他にふるさと定着回帰部会、成長産業振興部会、稼ぐ農林水産業創造部会、いきいき健康長寿部会、地域を支える人材育成部会があり、当部会と関係のあるテーマとしては食品ならびに少量・小規模の農産品の販売拡大戦略の横断的な取組について議論があった。

また、本日が最終回であり、この部会で意見の取りまとめを図り、後ほど委員の皆様にもまとめた形で示してもらって、オンラインで意見交換などをさせていただいてから、最終案を取りまとめたいと思う。次の総合政策審議会は10月の前半に予定されており、そこで提言書を提出することとなるが、部会終了後2ヶ月ほどあるため、委員の皆様には引き続き協力をお願いします。

5 部会委員自己紹介

□杉山観光戦略課戦略企画班長

次に、本日初参加となる渡邊賢一委員に、自己紹介をお願いします。

○渡邊（賢）委員

3回開催のうち2回欠席となりお詫び申し上げます。

名簿に書いてある一般社団法人元気ジャパンともう1つ株式会社X P J Pの2つを運営している。主に海外に対して日本のローカルな魅力を発信することをやっている。最近では復興庁と組んで福島、栃木、茨城を連携させたダイヤモンドルートジャパンというプロジェクトをプロデュースし、デジタルクリエイティブなどをやっている。先週ジャパンツーリズムアワードを受賞することができた。

今回このお話をいただいたときから資料7、8ページにある「ターゲットを見据えた誘客プロモーション」や「多様なメディアや新たな手法を活用した秋田ファンの拡大」が専門分野であると考えている。最終回であるが、これを機会に様々な交流ができればと考えている。よろしく願います。

□杉山観光戦略課戦略企画班長

それでは、次第4の議事に移らせていただく。ここからは打川部会長に進行をお願いする。

6 議事

○打川部会長

次第に沿って進める前に一言申し添える。審議内容は、議事録としてウェブサイトに掲載されるが、その際には委員名を公開するのでご了承願う。

それでは、次第の4（1）の「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」策定に向けた意見交換について」事務局から説明をお願いする。

（1）「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」策定に向けた意見交換について

□益子観光戦略課長

最初に、お配りしている骨子案はまだ作業途中であり、十分にオーソライズされていないものであることをご了承願う。

本日は、まず1ページから3ページの「1 現状と課題」及び「2 戦略の目標（目指すべき姿）」を説明した上で、一旦この部分についてご意見をいただき、続いて施策の分野ごとに担当課より説明しご意見をいただく、という形で願います。

（資料 第3期ふるさと秋田元気創造プラン骨子案 戦略4 により説明）

○打川部会長

それでは、ここまでで一旦ご意見やご提言をいただきたい。

1番がこれまでの現状と問題点を抽出しており、それに対応して2番が目指すべき姿として全体的な概略を表現しており、細かい点は次の施策に反映されている。

まずは、「（1）観光」について、ご意見やご提言をお願いする。

○渡邊（竜）委員

台湾やタイのエージェントと話をする、秋田の人がどれだけ国に来てくれるか、と言われる。交流と記載している以上、インバウンドを視野に入れながら秋田県の方のアウトバウンドも考えなければいけない。どこの県もインバウンドに力を入れており、競争となっていく中で、アウトバウンドに対する姿勢をきちん示していくのが大事だと考える。秋田県のパスポート取得率が非常に低いため、アウトバウンドを視野に入れたインバウンドとして、県民がこぞって海外の文化に触れるということとストーリーを持って海外に出て行けるような取組をどこかに入れてもらえたらと考えている。

○打川部会長

相互交流、相互交通として「来る」だけでなく「行く」というのも大切である。最近では国際便の話が少なくなり、韓国との国際定期便があった時には、パスポート取得などに力を入れた時期があった。定期便があった頃とは異なるからいらぬというのではなく、どこかに触れていただきたい。

この点について何か事務局から説明があるか。

□益子観光戦略課長

「現状と課題」については今回初めてお示したこともあり、我々としても課題の捉え方などは皆様からご意見をいただきながら、書き加えていきたいと考えている。どのような記載となるか分からないが、委員からお話のあった交流については少し触れさせていただきたいと考えている。

□猿橋次長

部会長からお話があったが、ソウル便があった頃はアウトバウンドに力を入れていた。高校生の教育と国際交流を目的に掲げてソウルやソウル経由で他の国に行ったことがあり、それに対して県が支援したこともあったが、一昨年からは定期便が運休となったことにより高校生がなかなか海外に行けなくなった。こういった点もアウトバウンドの熱が下がってきた原因の1つと考えている。

ただ、おっしゃるとおり台湾やタイに行くチャーター便を飛ばすにもアウトバウンドが欲しいという話も聞いている。どういう形となるか分からないが、ご意見を反映できるように努める。

○打川部会長

他に観光ジャンルは何かないか。

○渡邊（賢）委員

過去に来た方々の属性などいわゆる顕在層に対するマーケティングをしていると思うが、ポイント層は潜在層であり、例えば外国人が1%しか来ていない場合に他に行く残りの99%はど

う動いているのか、14億人いる海外からの国際観光客に効果のあるよう、客に今どのようなムーブメントがあるのか、どこにマーケットがありアタッチすれば利益が上がるのかなどの分析があれば、成長を非常に強化できると考えている。既に来た方々にリピーターになってもらうためのマーケティングのやり方とは異なり、地名のPRだけでなく、テーマ型のPRを実施して、秋田の魅力を発信していく。その際には潜在層がターゲットの母集団になると考えているため、潜在層マーケティングに関する戦略が何かあるのかお聞きしたい。

#### □阪場観光振興課長

現在、東北観光復興対策交付金の事業の中で、3年計画でそれぞれの重点市場国に対してターゲットイングやマーケティングを実施しており、どういったものが訴求するのか、秋田のどういったものを尖らせることができるのかを調べている。その上で、プロモーションを実施し、来てもらう動機付けする施策を実施している。我々も至らない所が多く、今後ともご相談させていただければと考えている。

#### □嘉藤次長

調査の実施主体が定かではないが、訪日外国人の様々な趣向や、1回目に来た人がどういった所に興味を持ち、どれくらいお金を使ったか、2回目以降に来た人がどこに興味・関心があるかなどといったことを国別に分析したものがある。県独自で調査するのは大変であるが、国の方で詳細に調査したものもあるため、県でもそういったデータの分析をしながらどこの国をメインとして施策を進めていくのかなどを検討している状況である。

#### ○打川部会長

訪日が1回目の方々ではなく、2回目以降の方々でなければ秋田になかなか来てもらえないことを考えると、それぞれの国へのアプローチとは別に羽田、成田、千歳、札幌などで既に国内に来た人へのアプローチも重要と考える。

次に「(2) 食品産業」について、ご意見等ないか。

先日の横断的な意見交換では、生産量が少なく他品種のものをどのように魅力を付けて日本中に出すのかなど、観光のみならず農業や食品加工業など横断的な取組が必要という意見が議題としてあった。

(※意見なし)

次に「(3) 文化振興」についてご意見等ないか。

#### ○富橋委員

少子高齢化の中で若い人たちがどのように芸術文化に取り組んでいくかは大きな課題だと思う。また、無形民俗文化財など伝統芸能の後継者育成が大きな課題となっており、下手をすれば、今後これらが無くなっていく可能性や危機感もある。文章的にはこれで良いが、もう少し若者に文化への興味を持たせるための教育委員会や学校などと連携した具体的な取組を強調できればと考えるが、いかがか。

○打川部会長

継承のための若者への呼びかけについて、「現状と課題」に盛り込んで欲しいとのことであるが、事務局より説明をお願いします。

□石黒文化振興課長

委員がおっしゃられるように若い方々の芸術文化への取組は促していく必要があると我々も非常に問題意識を持っている。様々な芸術文化の活動に招かれると、やっている方も見ている方も年配の方が多く、あとは子供と一緒に母親が見に来ているなど、10代・20代から働いている世代までの中間層が非常に少ないという印象がある。そういった所に対する取組については今後考えていく必要があるため、「現状と課題」に盛り込んでいきたい。

○打川部会長

次に（４）スポーツ振興についてはいかがか。

○伊藤委員

特に問題があるとは思わないし、文書についても量の制約がある中で良くまとまっていると思う。課題として最初に天皇杯の得点があると若干違和感がある。スポーツ振興という広い観点で進めることがこの部会の統一に繋がるとは思うが、3段目の2020東京オリンピック・パラリンピックか2段目の高齢化の記述を冒頭に置くなど、順番を変えても良いと思う。

□飯坂スポーツ振興課長

施策の方向性としては、1番目に交流人口に関すること、2番目に人材育成としている。初めに書いた方向性が一番重要であるということではないが、委員が読まれた印象としてのご提案と思われるので、2ページの段落の順番については再度検討したい。

○打川部会長

次に「（５）交通ネットワーク」についてはいかがか。

未来の交流基盤に係るランドデザインに時機を逸することなく取り組むと記載がある。

（※意見なし）

次に「戦略の目標（目指す姿）」についてであるが、各分野をまとめて1つの文章としており、さらに圧縮したものとなっているが、文言的に何か追加や修正などの希望はないか。

（※意見なし）

次に各施策について協議を進める。

「施策1 秋田の魅力を生かした観光の振興」の説明をお願いします。

□阪場観光振興課長

（資料 施策1：秋田の魅力を生かした観光の振興 により説明）

□須田港湾空港課長

(資料 施策1方向性⑤：外航クルーズ船等の誘致と受入環境の整備 により説明)

○打川部会長

施策1の観光について、何かご意見やご提言はあるか。

○渡邊(賢)委員

方向性③の中でデジタルマーケティングという言葉が記載されていないようであるが、SNSの情報発信だけでなくターゲティングやリマーケティングなどデジタルマーケティングの強化も施策として明確化しても良いと感じた。

もう1つは、海外目線で秋田をもう1度再編集していくといった、海外目線や外国人目線の強化が必要と考えているので、ご検討いただければと思う。

□阪場観光振興課長

デジタルマーケティングは、観光振興課としても関心を持っている所であり、どのように記載するか検討する。また、海外目線についても同様に検討したい。

○打川部会長

他にご意見等はないか。

○佐藤委員

とても良く記載されており、おもてなしをする側の観光業に携わる人間を支援するとはっきりと記載いただき、分かりやすくなり良かったと感じる。

○打川部会長

方向性①取組②の広域周遊ルートの形成とあるように、ルートについてはだいたいスポットライトが当たったが、その他に大事なものはどんな遊びができるのかというアクティビティである。ルートだけでは人は動いてくれないため、今あるアクティビティの周知や、魅力的なアクティビティの更なる育成などが必要と考える。例えば、冬の山や、秋田犬、海のレジャーなどにも触れられればと思う。

□阪場観光振興課長

ご指摘は体験型コンテンツを充実させていくべきではないかという点であると思うが、方向性①取組①がまさにその取組である。我々としてもハンディキャップがある中でそれでもなお秋田に来たいという動機付けを持ってもらうためには、尖ったコンテンツを定めていかなければならないという発想・視点でいる。そうした視点から取組①の体験型コンテンツの整備とそれと組み合わせた周遊ルートを作り、増やしていきたいと考えている。主な取組の1つ目がこの取組にあっているが、委員よりご指摘の内容についてももう一度精査したい。

○打川部会長

外国の方に限らず、日本の旅行者も体験できるアクティビティに大変興味があり、例えばさくらんぼ狩りやリンゴ狩りが抜けていると感じる。ふるさと村で実施している例では、きりたんぼ作りや漬け物体験などがあり、発酵食文化に着目した取組もあることから、漬け物体験なども入れてはどうか。

次に「施策2 秋田のうまいもの商品力向上と販路拡大」について事務局より説明をお願いします。

□嘉藤次長

施策2は秋田うまいもの販売課が所管しているが、課長が出張による欠席のため、代わって説明させていただく。

(資料 施策2：秋田のうまいもの商品力向上と販路拡大 により説明)

○打川部会長

施策2の食について、何かご意見やご提言はあるか。

○富橋委員

きりたんぼや稲庭うどんが追加で記載されており、秋田の食としてはもちろん日本酒やがっこもあるが、お米はアピールするものにはなっていないのか。

□嘉藤次長

農産物については、稼ぐ農林水産業創造部会で取り扱っており、我が部では加工食品を中心に販売・開発をしていくという整理にしている。

○打川部会長

次に「施策3 文化の振興と文化による地域の元気創出」の説明をお願いします。

□石黒文化振興課長

(資料 施策3：文化の振興と文化による地域の元気創出 により説明)

○打川部会長

施策3の文化について、何かご意見やご提言はあるか。

○渡邊（竜）委員

秋田から国内外に出て行って活躍している人を、県内に招くことの必要性を感じている。日本自体が島国であり、かつ東北に閉塞感がある中で、一度外のフィルターを通して活躍した方がメディアで取り上げられると、中の人々がまた違う視点で見ると思う。最近では全国的に有名となったアーティストの方々が秋田で様々なことをしているが増えているが、中はずっといと認めないという所もあり、また、近すぎて偉大に感じないこともある。

この点について、どのような言葉にするのかは難しいが検討いただきたい。

□石黒文化振興課長

秋田出身で国内外において芸術文化の活躍をされている方々が多数いるため、そういった方々の外の目を通して秋田で様々な場面で取組をしてもらったらどうかというご意見であると思うが、どんなことができるか今具体的なものはないが、検討していく。

○富橋委員

文化施設の整備に関連して、どのようにバックアップするのかという点が重要であるが、やはり県民会館がないということで、文化団体が秋田市の他の施設を使用するということもある。一方で経費のかかり増しなどの問題もあるが、文化団体が県北や県南の施設に行き実施することで、全県を出回ることになり、1つのチャンスになるのではないかと考えており、様々な団体への呼びかけが必要であると考えている。

□石黒文化振興課長

芸術文化はどうしても秋田市に集中しがちだったが、今回の県民会館の閉館は県南県北など様々な所での大きな活動を促すチャンスであるとも考えている。かかり増しになる経費に関しては、実際に活動されている様々な団体などと話をしながら何らかの支援ができないかも含めて検討していきたい。

○打川部会長

県民会館は、コンベンション施設としての側面もある。私達、商工関係や観光関係でコンベンション誘致のため様々な所に行くが、キャパの問題で秋田では開催ができず、盛岡市や山形市では実施できることがある。県民会館も陸上競技場などのスタジアムも同様であるが、コンベンションにも使える、人が集まる大きい事業ができる、といったような施設を将来に渡って計画していかなければ交流人口も増えないだろうといったスタンスはどこかに盛り込んでいくのか。

□石黒文化振興課長

この中に直接的な盛り込みはない。

新しい文化施設のホールは、今までできなかった1つの会場での3千人のコンベンション開催ができるものである。

しかし、完成するのは平成33年度であり、この期間は県民会館すらない状況になる。この期間中は、1,200人から1,300人くらいまでであれば1つの会場でできる施設が色々あるが、それ以上の規模のものについては武道館の活用によるコンベンション誘致などを検討していく。コンベンション誘致の取組の盛り込みについては、関係部署と相談しながら進めていく。



□猿橋次長

ちょうどこの第3期プランが終わる時期に新文化施設の建設が終わるという状況もあり、この計画の次の計画で3千人のコンベンションとしての利用を盛り込むことになると思う。コンベンション誘致も建設の1年前から実施すべきという声もあり、単年の施策や次の計画の中にこのような取組を盛り込む必要があると考えている。

○富橋委員

確かに新しい文化施設で3千人規模の式典的なものはやることができると思うが、秋田では呼べなくて岩手、山形、青森、東京で実施できるのは、コンベンションホール、いわゆる展示ホールの問題であると思う。東京ビッグサイトのような大きなものとはまでは言わないが、大型トラックが中に入り設置でき、電気の配線もしっかりと通っているような展示ホールが郊外にできれば良いと以前から考えていて、これが実現すれば、全国大会の開催誘致もできると思う。この計画には入らないであろうし、県の予算的なこともあると思うが、将来的に検討していく必要がある。

○打川部会長

人を呼ぶための施設整備の考え方の基盤について少し触れておけば、今後の計画にも芽が出るのかなという印象がある。

□猿橋次長

方向性③の所で記載するとなると先ほど私が申し上げたような話に近くなるが、若干の解釈間違いがあったかもしれない。

一般的なコンベンション誘致については、秋田県は欠けている部分があるため、検討させていただければと思う。

○渡邊（賢）委員

15ページの方向性②の所で、イノベーションという観点はあるのかお聞きしたい。

ここに書いてあるものは芸術文化の振興や育成がメインとなっているが、例えばロボット工学と芸術の融合やメディアアートと工芸の融合のような異能の掛け合わせなどが文化の進化を支えていき、文化が進化していくものと思っている。仮にイノベーションという観点が可能であれば、記載することにより未来志向型かつ政策の自由度が拡大するのではないかと考える。

□石黒文化振興課長

イノベーションについては具体的なものが思いつかないが、秋田には公立美術大学もあって、様々な角度からの芸術文化も創造されているため、アドバイスいただいた部分について盛り込めないか検討する。

○打川部会長

次に「施策4 『スポーツ立県あきた』の推進とスポーツによる交流人口の拡大」の説明をお願いします。

□飯坂スポーツ振興課長

(資料 施策4:「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大 により説明)

○打川部会長

施策4のスポーツについて、何かご意見やご提言はあるか。

○伊藤委員

細かい内容となるが、言葉・用語の引用について確認と説明をお願いします。

1つ目としては、方向性①取組①の本文に「スポーツ交流人口」という言葉があるが、施策4のタイトルには「スポーツによる交流人口」という言葉がある。本来的にスポーツが1つの契機となって交流人口が拡大していくことを目指すと思われるが、スポーツを通じて交流する人が増えること以外を目指すとすれば、「スポーツによる交流人口」という言葉を使ったほうが良い。

2つ目としては、施策のねらいで「スポーツ参画人口」という言葉がキーワードとなっているが、方向性①取組②には「スポーツ人口」という言葉が使われており、この違いがあるのかどうかという点である。国の基本計画では「スポーツ参画人口」が使われており、様々な積極的な参画があるという意味で使われている。その点を勘案すると「スポーツ参画人口」とすべきであると考えているが、何か意図があって「スポーツ人口」としているのであれば、ご説明いただきたい。

3つ目として、方向性③取組②の主な取組に「地域スポーツ」という言葉が出ており、方向性④取組①の主な取組に「総合型クラブが持続的に地域スポーツの担い手となるための質的充実」とある。文部科学省のスポーツ基本計画に載っている言葉であるが、ここで言う「地域」というのは、総合型クラブが対象としている中学校区やそれより小さいエリアを指し、このような総合クラブが対象としたエリアでのスポーツを「地域スポーツ」としていると思う。単なる「スポーツ」と「地域スポーツ」の使い分けが難しいとされていて、方向性③取組②の主な取組にある「県体協や競技団体等との連携強化による地域スポーツの普及」に「地域」を付けるべきか、「地域」をどのように使ったら良いかなど判断が付かない所がある。「スポーツ」と「地域スポーツ」の使い分けについてご説明いただきたい。

最後に、方向性④取組①の主な取組に「総合型クラブが持続的に地域スポーツの担い手となるための質的充実を目指した支援」で、具体的な記載は難しいと思われるが、他の都道府県に先がけて県内各市町村に総合型クラブの1つの設置という目標を達成している。国全体としても多くのクラブができており、今後は質が重要となってくるが、県内でもいち早く質の向上に取り組んでいると思われる。しかし、クラブができ始めたときは各クラブ代表者の講習参加が多かったが、最近ではほとんどのクラブのマネージャーなどが既に講習を受講してしまってい

て、講習・研修をやりたくてもなかなか出席してもらえない状況にある。私も何年かこれに対する活動に参加しており、毎年時期をずらして参加しやすい時期に開催しているが打開策がなかなか見えてこないため、小手先の日程調整だけではなく、根本的な解決策が必要と考えている。今答えを出すのは無理かもしれないが、今後の総合型クラブの指導者達がどうしていくかという根本的な展開が可能となるような記載になれば良いと考えている。

少し多くなってしまったが、ご説明をお願いします。

#### □飯坂スポーツ振興課長

1点目の言葉のご指摘については、「スポーツ交流人口」という風に言い切ってしまうとなかなか理解されないと思うので、「スポーツによる交流人口」に統一させていただく。

2点目の「スポーツ参画人口」と「スポーツ人口」であるが、従前の県のスポーツ推進計画では「スポーツ人口」としていた所、国の新しい計画の中で「スポーツ参画人口」という言い回しが出てきたため、2パターンの記載となってしまった。ここは「スポーツ参画人口」で統一させていただく。

3点目については、我々の気持ちとしては「地域に根ざしている生涯スポーツ」という観点で「地域スポーツ」という表現をしている。区分けすると、トップオブトップを目指すものは「競技スポーツ」で、地域で日常的に年代を問わず行われるスポーツ活動という意味で「地域スポーツ」としている。理解しづらい点もあると思われるので、言い回しや説明を少し検討させていただきたい。

最後の総合型地域クラブの質的充実の点であるが、委員がおっしゃるように現在県で73の総合型地域クラブがあり、これら全てのクラブがきちんと自分達でできるのかといった運営体制について一昨年分析を実施した。自分達で自主運営して収入をきちんと確保しているクラブや市町村から指定管理を受けているクラブなど独立したものは10数クラブしかない。残りの30から40クラブはトータルで7年間もらえる toto からの助成金頼みでなんとか保っている。その他のクラブは危機的状況となっている。平成7年から国が提唱して実施している事業であり、20数年経過し、当然様々なクラブができていの中で自然淘汰されるクラブもあるかもしれないが、せつかくできたクラブは大事にしたいという我々の思いがあり、一昨年から希望する各クラブに専門家を派遣して、実際に変えるべき点を指摘してもらい危機感を持ってもらっている。このようなコンサルの実施により、経営者やクラブマネージャーなどが幅広い知見を得ようと積極的に研修などに出てくることもある。このように実際に取組はしているが、どこまで具体的に記載できるかは少し検討させていただきたい。また、そういった気持ちを持って取組を実施しているという点をご理解いただきたい。

#### ○打川部会長

次に「施策5 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進」の説明をお願いします。

#### □石川建設部参事兼道路課長

(資料2 施策5：県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進 により説明)

○打川部会長

道路について、何かご意見やご提言はあるか。

○日野委員

色々修正いただいたが、まだ作る方に寄っていると感じる。特に方向性①は変えることはできないか。これがまさに作る所に寄ってしまっていて、他の部分よりも作る所が非常に強く出ている。確かに先ほどの説明で整備が既に決まっているとあったが、逆に作った物をどうするのか、こういう風に使えるとか、県にこれだけ効果があるなどを言わなければ、そもそもここに入れる必要がないのではないか、粛々と作れば良いのではないかなどといった話になるのではないか。

取組①と取組②については、高速道路や4車線化の整備をするといった取組内容で良いが、作ることが方向性ではなく、方向性はあくまで作ることによるメリットなどを記述しなければいけないと思う。

□石川建設部参事兼道路課長

他の方向性と比べても方向性①については、委員がおっしゃるとおりであるので、再考したいと思う。

○打川部会長

次に「施策6 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築」の説明をお願いします。

□高橋交通政策課長

(資料2 施策6：交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築 により説明)

○打川部会長

施策6について、何かご意見やご提言はあるか。

(※意見なし)

それでは施策6まで一通り協議が終了したが、全体を通じて、またはそれぞれに属さない内容や気づいた点など他にご意見やご提案はないか。

○渡邊(賢)委員

全てを通じて「秋田犬」が頻繁に出てくるが、「秋田犬」のブランディングは今どのような取りまとめをしているか説明いただきたい。

□阪場観光振興課長

ブランディングという観点とは異なるかもしれないが、「秋田犬」が台湾、韓国などのアジアを中心にヒットしており、秋田にしかないコンテンツという事で、「秋田犬」という素材とそれ以外の周辺のコンテンツとを組み合わせた観光誘客ができないか検討している。併せて、「秋田犬」に県内の観光地を旅してもらおうという主旨で「JAPAN AKITA」というポ

スターを日本国内や海外に配布している。我々が能動的に行っているプロモーションをもってブランディングという言い方もある一方で、当部会を通して口コミについてお話のあったように、我々にとっては受動的となるが、SNS を経由した拡散効果による秋田のブランディングに、この1、2年で非常に力を入れている所である。

○渡邊（賢）委員

「秋田犬」については、徹底的にやってもらった方が良い。これは絶対に強いコンテンツであるため、更なる強化をすべきと考える。

□阪場観光振興課長

我々も手探りの中で「秋田犬」をどう活用していくか考えている所で、応援いただき非常にありがたく思っている。例えば各種イベントにおける東北各県のプロモーションを見ると食がおいしい、景色がきれい、温泉がいいというように類似している印象がある。我々はそこでテーマ性を持たせて「秋田犬」を中心とした上で、周辺のコンテンツを組み合わせることが重要と思っており、取組を続けている所である。

○渡邊（竜）委員

今回が最後ということで、これが4ヶ年の施策に反映されるということだが、今一連のご説明いただいた内容は、優先順位や時間的にフェーズがあるような気がする。もし可能であれば、フェーズを切ったような整理をされると着手のスケジュール感が見えて良いと思う。整理の観点としてはそれぞれのタスクを挙げているとは思いますが、今回大事なのは計画作りだと思うので、フェーズに落としとして可視化できるのであればありがたい。

□猿橋次長

基本的にはこの計画に則って県庁の各課所で実施していくこととなる。課所によっては、この計画の下にさらに別の計画を立てて実施するところもある。

委員がおっしゃるのは、4年間でいつからスタートしていつ成果を上げるかといった行程表的なものであると思うが、県庁の作業スケジュールについては事務局より説明させていただく。

□三浦観光戦略課戦略企画班副主幹

最終的な形がどういうものになるかについては、総合政策課でまだ議論しているところである。今お示ししているのは前回のプランに近い形で作業しているが、これからご提案いただいたフェーズについて、どういう形で最終的に完成させるかといった全庁的な議論となると思うが、総合政策課に提案したい。

○打川部会長

他に委員の方々から何かないか。

○富橋委員

方向性①の「beyond2020 プログラム」の内容について、具体的にご説明いただきたい。

□石黒文化振興課長

政府がスポーツの祭典である東京オリンピック・パラリンピックを日本の芸術文化を紹介する機会と捉えており、この機会に併せて「beyond2020 プログラム」というものを作った。

これは、当課で日本の芸術文化を紹介するイベントや活動を登録していく形となり、それを国として国内外にPRしていく取組である。現在、国が直接の認証機関として全国から出てきた物のプログラム認定の判断をしているが、認証については地方自治体等が代行できる制度もあり、来年以降当県も認証機関になって、より身近な所で登録ができる体制を取っていきたいと考えている。既に県内で「新・秋田の行事」や「かみこあにプロジェクト」などいくつかのプロジェクトは国から認定済みであり、「舞踊舞踏フェスティバル」も間もなく認定されると聞いている。

○富橋委員

確かロンドンオリンピックの際にスポーツだけでなく文化イベントをかなり多く実施したようであるが、それに準じているような形なのか。

□石黒文化振興課長

そのとおりである。

○富橋委員

既存の伝統芸能の行事などもプログラム認定されることとなると思うが、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、もう少し創造的なものを作りあげて県内から国内外に発信することも考えているか、お聞きしたい。

□石黒文化振興課長

県としては、認証の手続きを県庁がやるだけでなく、実際にそういった取組をしようとしている所への支援を今年度から実施している。具体的には、「文化による地域の元気創出事業補助金」の中に東京オリンピック・パラリンピックに向けたプロジェクトの特別枠を設けて、今年度から募集を開始している。補助金の額も通常のものより増額させて、今までの地域のお祭りやイベントだけでなく、海外への発信や東京オリンピック・パラリンピックの精神に則った活動などを対象としている。今年は「かみこあにプロジェクト」が新たに認定され、実際に外国語表記するなどの活動を実施している。

○打川部会長

なまはげがユネスコに申請したという話を聞いたことがあるが、進捗についてお聞きしたい。

□猿橋次長

申し訳ないが、ユネスコへの申請については教育庁の文化財保護室で所管しており、詳しい情報を承知していない。

○打川部会長

なまはげがユネスコの無形文化遺産に認定されれば、観光にもかなりの効果があると思う。

○渡邊（竜）委員

先ほどお話しさせていただいたスケジュール感について、意図を補足する。

今回の計画では東京オリンピック・パラリンピックがあるので、その前後はDCの前後とは事情が異なると考えている。他県の総合政策や計画にも少し関わらせていただいているが、東京オリンピック・パラリンピックまでの盛り上がりで終了してしまうような計画が散見される。

やはり、秋田のような所では、その後もいかに継続性を持って取り組んでいくかが重要で、フェーズを切ることなどもさることながら、東京オリンピック・パラリンピック後にどのように定着させていくかという観点も入れて欲しい。

□猿橋次長

今回私どもとしても、スポーツと文化で東京オリンピック・パラリンピックに向けた、という表現で計画作りをさせていただいた。特にスポーツは事前合宿誘致を1つの大きな目標としているが、事前合宿誘致もそれで終わるわけではなく、その後の国際交流を続けていきたいという話をしている所である。

行程表やスケジュール作りでは、そのような視点をなるべく反映させたいと思う。

○打川部会長

次に次第の4（2）の「その他」について事務局から願います。

（2）その他

□益子観光戦略課長

皆様からいただいた様々なご意見等については、この後の3期プラン検討や来年度予算策定の検討といった場面で生かしてまいりたい。また、この後、事務局で皆様からいただいたご意見を踏まえて、この部会からの提言書の案を取りまとめる作業を行う。

提言書の案ができれば、委員の皆様にもメールで送付し、内容の確認をしていただくので、よろしく願います。

先ほど事務局より説明させていただいたが、今回のプラン策定については、取りまとめる総合政策課から詳細が示されていない部分もあるので、必要に応じて委員の皆様からご意見をいただくこともあるかと思うが、引き続き願います。

□猿橋次長

今回は最後の部会であるため、一言お礼を申し上げます。

3回という限られた期間内であったが、多くのご提言をいただき感謝する。部会はこれにて今年度終了となるが、皆様には今後とも様々な方面で県政全般に関するご提言ご指導をいただけたら大変ありがたいと思っている。引き続きよろしく願います。

□杉山観光戦略課戦略企画班長

以上で、秋田県総合政策審議会第3回人・もの交流拡大部会を閉会する。